

| 第135回小金井市新型コロナウイルス感染症対策本部部会会議録 | 日時 | 令和4年8月17日（水） 9：45～10：10 | 場所 | Web |
|--|--|----------------------------|----|-----|
| 出席者 | 西岡市長、小澤副市長、大熊教育長、天野企画財政部長、藤本庁舎建設等担当部長、加藤総務部長、西田市民部長、柿崎環境部長、中谷福祉保健部長、大澤子ども家庭部長、若藤都市整備部長、大津学校教育部長、梅原生涯学習部長、堤企画政策課長、宮奈地域安全課長、石原健康課長、佐々井新型コロナウイルス感染症対策担当課長、廣田広報秘書課長、宮腰地域安全係長 | | | |
| 付議事項 | <ol style="list-style-type: none"> 1 新型コロナワクチン接種について 2 新型コロナウイルス感染症への対応について 3 各部連絡事項 | | | |
| 資料 | <ol style="list-style-type: none"> 1 新型コロナウイルスワクチンの接種状況及び接種体制について 2 新型コロナウイルス感染症の現下の状況を踏まえた自宅療養者等の災害時の対応について（周知） 3 新たな自殺対策大綱素案コロナ関係抜粋 | | | |
| <p>（進行：福祉保健部長）</p> <p>（市長）</p> <p>新型コロナウイルス感染症について、BA5、BA2.75といった進化系が広がっており、現在も深刻な状況である。夏休みの人の移動による影響が今後現れるのではないかと危惧している。医療体制が逼迫し、発熱外来は電話が繋がりにくい状況にあり、検査もできないケースがある。そのため20歳代から40歳代で軽症と判断できる方は、東京都の検査制度を利用してほしい。検査キットをネットで取り寄せ、陽性の場合は東京都の陽性者登録センターへ登録する制度である。健康課は市民に対してHP、ツイッター、アナログでの発信をお願いしたい。</p> <p>市内の感染者は8月15日時点で陽性者183名。8月13日時点で小金井市は入院95名、宿泊療養者59名、自宅療養者1612名、調整中143名、合計1909名となっている。入院患者数、療養宿泊者数は少しずつ増えている。</p> <p>ワクチン接種については、第6回補正予算に新型ワクチン接種に係る予算を計上した。議会でご議決いただき、新たなワクチン接種の準備に取り組んでいく。</p> <p>ワクチン接種は、現在一回目から四回目のワクチン接種を継続しているが、今後はファイザーの在庫数に限りがあり、モデルナを活用していくことになる。加えてノババックスという新しいワクチンを接種できる体制を構築していく。一方で、10月の下旬以降からはオミクロン株対応の新型ワクチンの接種をスタートさせていく。</p> <p>医療の逼迫状況軽減に関しては、陽性者の全件把握の見直しなど、感染症対策に影響が出ない範囲での見直しの際には対応していきたい。今後東京都等に対しても医療・保健従事者の負担軽減につながるような要請行動をしていきたい。</p> <p>また、庁内の感染者数の増加は続いている。職員の健康管理をしっかりと行っていただくようお願いする。</p> | | | | |

1 新型コロナワクチン接種について

(新型コロナウイルス感染症対策担当課長)

・接種状況については資料のとおり。4回目の60歳以上の接種率が伸びている。小児(5～11歳)の接種率が依然低い状況にある。9月上旬から適用される予防接種向上の努力義務について周知して接種率の向上に努める。

・今後の接種体制としては、7月時点で想定していた接種体制を見直すことになった。市内の医療機関における個別接種は現在の予約分で従来ワクチンの接種を終了する。次回市内の医療機関にご協力いただくのは、オミクロンワクチンでの接種となる。集団接種については9月から変更になるが、モデルナワクチンの接種を中心とすること、10月からはノババックスワクチンを新たに使用する。

・接種体制変更の理由としては、令和4年7月22日より、医療従事者から高齢者施設従事者等への接種対象者の拡大、3回接種者の急激な増加、モデルナワクチンの希望者が想定より少なかったこと、及び7月上旬を最後にファイザーワクチンの追加供給が国や都からなくなったこと、これらのことから市が確保しているファイザー製ワクチンの在庫数に懸念が生じる見込みとなった。ファイザー製ワクチンの接種を依頼してきた市内医療機関での個別接種の継続が困難になったことによる。また集団接種でもファイザー製ワクチンの接種枠を削減する必要性が生じたことが主な理由である。

・11月以降についてはオミクロンワクチンの接種の開始が想定されており、今後国から示される接種対象者やワクチンの供給スケジュール等の把握に努めながら、希望する市民が早期に接種できる体制を構築していく。

(市長)

従来型ワクチンはいつまでか？

(新型コロナウイルス感染症対策担当課長) 今予約とっているところで終了、最も遅い医療機関で9月上旬。9月上旬以降は集団接種会場、保健センターのみとなる。9月10月は保健センターが中心。

(市長)

どうしてもファイザー希望の方は東京都の接種会場に行ってもらおうことでよいか？

(新型コロナウイルス感染症対策担当課長)

ファイザーワクチン希望者のため東京都の接種会場をHPで照会していきたい。

(市長)

5歳～11歳児への接種努力義務について最新情報は？

(新型コロナウイルス感染症対策担当課長)

最新情報については先週から変わりはない。次回は9月上旬に開かれる厚生科学審議会予防接種ワクチン分科会の議論の後、予防接種法が改正されて適用になる見込みである。

2 新型コロナウイルス感染症への対応について

(健康課長)

- ・ 自宅療養者に対する避難所への誘導についての国から東京都への周知文書を添付した。
- ・ 台風接近時等に多摩府中保健所からのコロナ患者へ通知しているショートメッセージ例文を参考に添付した。

(市長)

- ・ 東京都の20歳代～40歳代の検査制度について必要な情報発信をお願いしたい。

(健康課長)

- ・ 市HPのブランディングエリアに掲載済みである。
- ・ 20歳代～40歳代の方は抗原検査キットの自宅への送付を受けられること、検査の結果については医療機関に受信せずとも軽症者は陽性者登録情報センターに登録できること、登録されと、健康観察や都からの物資搬送が受けられる制度であることを周知している。

(福祉保健部長)

- ・ 災害時に必要となる自宅療養者の情報（誰が在宅療養しているか）は、現在市は把握していないはずである。災害時どうなるのか。

(健康課長)

- ・ 現在、保健所から自宅療養者の個人情報健康課のみが提供を受けている。物資の搬送のため必要である。この制度が現在見直しされている。災害時での活用を踏まえ地域安全課もその情報提供の対象となるよう東京都と手続きを進めている。それにより、今後都と連携し災害発生時に自宅療養者に対して、市から情報の提供等を行えるようになる。

3 各部連絡事項

(総務部長)

- ・ 庁内職員（正規、再任用、会計年度職員含む）の感染状況は8月本日時点で陽性者39人。濃厚接触者で自宅待機もそれに準じた人数がいると推定される。今日まで職場内でのクラスター発生は確認されていない。職場内での感染予防には引き続き注意をお願いしたい。
- ・ 情報システム課にテレワーク用端末3台があるので必要に応じて利用することが可能。

(健康課長)

- ・ 国が8月28日まで意見募集している「新たな『自殺総合対策大綱』素案」について、コロナに関する部分を抜粋したものを資料として付けた。本市においても今年度から来年度にかけて自殺対策推進計画の改訂が行われる。

(以上)